

## 【熊本 S. J. C. D. 例会 抄録】

### 演題 下顎臼歯部欠損症例に FGG を併用しインプラント治療を行なった1症例

演者 栗原健一

日付 2008年10月28日

#### Keywords

1. FGG
2. インプラント
3. 診査診断

症例は初45歳、女性、初診日平成17年6月7日、右下臼歯部のブリッジ脱離を主訴に受診されました。47は動揺度3度でしたので保存不可能で抜歯を行いました。その後基礎資料を採得し治療計画を立案しました。

抜歯となった原因は、エンド病変と咬合によるものと考えられました。

欠損部の補綴として部分義歯、インプラントによる補綴を説明し、後者を選択されたので46、47部にインプラントによる補綴治療を計画しました。

問題点として、46部の顎骨の幅が狭い事と同部の角化歯肉が少ない事が考えられました。狭い骨幅に対してはストローマンのナローネックを使用し、角化歯肉が少ない事に対してはFGGを行いインプラント治療を行ないました。

咬合に関しては他の部位の治療は受け入れてもらえませんでしたので、メンテナンス時の咬合調整を行なっています。

上部構造装着後2年ですが諸先生方の御指導の程宜しくお願い致します